大学施設の評価と学生生活の関連性

○玉井航太・大井直子・栗山容子
(国際基督教大学)

キーワード:教育環境 大学施設への評価 学生生活

Relationship between Evaluation of Physical Facilities and Student Life

Kota TAMAI, Naoko OOI and Yoko KURIYAMA

(International Christian University)

Key words: Educational environment, Evaluation of physical facilities, Student life

目 的

大学構内は様々な施設からイメージされる物理的環境を持ち、それは学生が常に接触を持つ教育環境の重要な側面と位置付けられる(川戸・大井・原, 1990)。大井, 川戸, 原(1990)は大学にある物理的環境としての大学施設に対して学生がどのような認知をしているかをSD法により検討し、評価、活動、力量の3次元を見出し、評価次元が最も重要な役割を果たしていることを示した。川戸他(1990)は大学で行われている種々な教育プログラムや行事を行動的環境と定義し、SD法による認知次元の検討を行っている。川戸他(1990)が定義した大学での行動的環境は、学生が様々なプログラムや行事へ積極的に参加しているかどうかの態度を測るパラメーターでもあるとしており、学生の行動をコントロールするものであるとみなしている。そして、川戸他(1990)は大井他(1990)の研究で得られた物理的環境の「評価」次元と彼らの研究で得られた行動的環境の「評価次元」を合わせて検討し、別々の調査協力者に評定させたにも関わらず、その認知マップ間に非常に高い類似性を見出している。この類似性は学生の大学における行動や態度の一つの指標と考えられる行動的環境と物理的環境への評価の間における関連性を表わしていると考えられ、大学における大学施設の評価と学生の行動・態度としての学生生活に関連性が見られることを示している。そこで本研究は大学施設の評価と学生生活の関連性を検討した。

方 法

調査参加者と手続き 2010年3月に東京都にある私立大学で質問紙を配布し、大学生と大学院生137名(男性87名、女性45名、不明5名)から回答を得た。

質問紙の構成 大学構内にある主要な建造物や公共の場所12か所の学内呼称を刺激語としてランダムに配列し、その各々につき、12対の形容詞を両極に置く5段階評定尺度のSD法形式質問紙を用意した。また、Pace(1969)のCollege and University Environmental Scaleを参考にし、24項目の学生生活に関わる質問を尋ねた(栗山・大井, 2007)。

結 果・考 察

基本的評定次元の抽出のために12個の形容詞対の評定尺度に対して主因子法とバリマックス回転による因子分析を行った。その結果、3つの因子が抽出され、評定項目の内容から第一因子を「評価」、第二因子を「活動」、第三因子を「力量」とした。次に、刺激語として用いた大学施設ごとに評価次元の尺度得点を算出し、主成分分析とバリマックス回転をおこなった(表1)。評価次元の尺度得点からの主成分として3つの主成分が確認され、評定項目の内容から第一主成分を「学生生活空間」、第二主成分を「大学特徴空間」、第三主成分を「アカデミック空間」とした。評定項目における「大学本館」は第一主成分と第三主成分に対しても.450以上の高い負荷量を示しており、各主成分の尺度得点の算出の際に大学本館を両主成分にまたがって含めた。次に、学生生活についての24項目に対して主因子法とプロマックス回転による因子分析を行ったところ、3つの因子が抽出され、評定項目の内容から第一因子を「対人関係行動」、第二因子を「知的関心」、第三因子を「精神的自立」とした。以上の分析から得られた「学生生活空間」、「大学特徴空間」、「アカデミック空間」への評

価についての尺度得点と学生生活の各因子の尺度得点の平均値、標準偏差、信頼性係数、及び大学施設への評価と学生生活間の相関係数を表2に示した。

表1. 大学施設評価についての主成分分析結果

	1	2	3
1 体育館・室内プール・セントラルロッカー・ス ボークラブハウス	.726	.025	.104
2 大学食堂(仮設食堂)	.696	-.095	-.009
3 総合学習センター(LC)	.598	.149	.344
4 ディッフェンドルフ記念館西棟(新D館)	.593	.271	-.396
5 大学本館	.542	.046	.494
6 図書館、ミルドレッド・トップ・オスマー図書館	.527	.346	.319
7 マクレーン通り(正門通り)と桜並木	.003	.806	-.087
8 大学本館前芝生広場と梅林	-.002	.767	.030
9 大学礼拝堂(大学教会)	.087	.567	.321
10 キャンパスの森(教職員住宅・寮周辺)	.124	.534	.127
11 教育研究棟I(ERBI)	.060	.002	.707
12 理学館	.120	.284	.621
固有値	2.33	2.15	2.15
寄与率	19.45	17.94	13.71
累積寄与率	19.45	37.39	51.10

表2. 各尺度得点の記述統計、信頼性係数及び大学施設評価と学生生活間における相関係数

	n	M	SD	α	相関係数		
					1	2	3
学生生活空間	131	3.10	0.40	.71	.30 **	.12	.12
大学特徴空間	134	3.93	0.40	.63	.24 **	.11	.06
アカデミック空間	136	3.31	0.43	.52	.10	.24 **	.11
1 対人関係行動	136	3.71	0.73	.80			
2 知的関心	134	3.45	0.66	.65			
3 精神的自立	135	3.92	0.64	.64			

note: α = Cronbach信頼係数; ** < .01

相関分析の結果からは学生生活空間と対人関係行動、大学特徴空間と対人関係行動、アカデミック空間と知的関心が有意な正の相関を示していた。学生生活空間と大学特徴空間は大学における人間関係の交流の場を提供しており、学生生活としての対人関係行動と関連を持つと考えられる。そして、多くの授業が行われや教員と触れ合う機会が多いアカデミック空間は学生の知的関心と関連することになったのであろう。これらの結果は、大学施設のあり方を学生生活と関連づけながら考える必要性を示唆している。一方、相関分析の結果からは大学施設が学生へ精神的自立を促す場として機能していない、もしくは学生が大学施設へ精神的自立を求めなくなっている可能性を示唆するものであった。

主要引用文献

川戸さえ子・大井直子・原一雄 (1990). 大学キャンパスの認知マップ: (その2)教育プログラムの評価と教育環境の役割 国際基督教大学学報, I-A 教育研究, 32, 41-60.
栗山容子・大井直子 (2007). 大学生の価値志向(5):入学動機, 大学生活との関連 日本発達心理学会第18回大会論文集
大井直子・川戸さえ子・原一雄 (1990). 大学キャンパスの認知マップ: (その1)教育環境の意味次元と学園内施設の評価 国際基督教大学学報, I-A 教育研究, 32, 23-39.